

特集

# 団塊ジュニア世代

社会の格差が拡大する中で

武蔵野大学教授

小西 聖子

## 世代論について

団塊ジュニアの現状について。「エガール」の編集委員会からそういうお題をいただいたが、私は精神科医なので、普段は、社会の変化や世代間の差ではなく「個人差」を見る仕事をしているから、ちよつと困った。基本的に人の個人差は世代ごとの特徴による差よりずっと大きいものである。たとえば今50代の女性が病院に来たとして、「この人は団塊の世代だから……」というように世代の特徴を考へて診断や治療をしていることはほとんどない。もし、考えるとしたら、幼児期とか思春期とか更年期といった、発達サイクル上の段階についてである。「更年期は抑うつ的になりやすい時期だし、子どもが巣立った時期ならば、それで精神的に不安定になるかもしれない」というように。

ただし人の価値観や家族観、職業観が大きく変われば、その人にとって大事なものも変わるし、またストレス源となるものも変わる。たとえば昔は「いじめられた嫁の姑殺し」が結構あったものだが、今はもう絶滅に近いというのもその例である。そういう意味では、治療の方針を考えるとときには、世代の特徴や社会構造の変化なども考慮したほうがよいときもある。すこし普段の仕事とは距離を置いて団塊ジュニアについて考えてみようと思う。

## 団塊ジュニアの人たち

団塊ジュニアをきちんと定義しようとするとなかなかむずかしいが、いちばん普通に、第二次ベビーブームの世代、すなわち1970年代前半に生まれた世代のことだと考えよう。そうすると今30歳から35歳くらいの人である。大学で臨床心